

8月2日(日) 13時～
YouTube 生配信
ON AIR

入院中でも 子どもの学びを支え 孤立させないオンライン支援

～ 保護者・医師・支援団体と一緒に考える ～

supported by 公益財団法人ベネッセこども基金



病気の子どもと家族を孤立させない支援団体
NPO 未来 ISSEY
代表 吉田 ゆかり 氏

次男が小児がんになり、闘病生活を体験。香川県と県外での入院生活の違いを知り、サポート団体の有難さを実感しました。香川でも同じ思いをする人たちの力になりたいと、2018年11月にNPO 未来 ISSEYを立ち上げ、病気を抱える子どもたちやご家族が少しでも安心して、希望の光が見える社会の実現を目指して活動中です。



独立行政法人国立病院機構
岡山医療センター
小児科 樋口 洋介 先生

2008年に岡山大学卒業、
2010年より小児科医として子どもたちの健やかな成長をサポート出来るよう日々取り組んでいる。
日本小児科学会小児科専門医



【対談ファシリテーター】
2児の母としてゲストの思いを深掘り
フリーアナウンサー
中村 恵美 氏

福岡県出身、玉野市在住。1997年山陽放送入社。現在はRSKラジオのパーソナリティを担当。絵本セラピスト(R)・アンガーマネジメントの講座などを開催するほか、岡山NPOセンター理事を務める。



認定特定非営利活動法人
ポケットサポート
代表理事 三好 祐也 氏

5歳で慢性ネフローゼ症候群を発症し、義務教育のほとんどを岡山大学病院(院内学級)で過ごす。その経験から母校の院内学級で学習支援ボランティア活動を始め、岡山大学大学院で病弱教育を研究。2015年にNPO法人ポケットサポート設立。座右の銘は「病気だけど誰より元気！」

Talk 1 病気を抱える子どもの家族の立場で入院中の学習はなぜ必要か？

Talk 2 小児科医師の立場で入院中の子どもの学びをどう支えるか？

Talk 3 病気を抱える子どもたちを『オンライン』でどう支えるか？

主催：認定特定非営利活動法人ポケットサポート 助成：公益財団法人ベネッセこども基金

※イベント当日は新型コロナウイルス感染拡大防止のためYouTubeLiveおよびFacebookLiveにてポケットサポート事務所から生配信します。

お問い合わせ

ポケットサポート事務局（所在地：岡山市北区奥田本町 22-2）

イベント詳細 WEB

<https://www.pokesapo.com/>



タイムスケジュール

13:00～13:10
開会挨拶・登壇者紹介

13:10～13:50 Talk 1 (40分)

病気を抱える子どもの家族の立場で 入院中の学習はなぜ必要か？

【トークゲスト】
・NPO 未来 ISSEY 代表 吉田 ゆかり 氏

休憩 (10分) CMなどを配信予定

14:00～14:40 Talk 2 (40分)

小児科医師の立場で 入院中の子どもの学びをどう支えるか？

【トークゲスト】
・独立行政法人国立病院機構 岡山医療センター
小児科 樋口 洋介 先生

休憩 (10分) CMなどを配信予定

14:50～15:20 Talk 3 (30分)

病気を抱える子どもたちを 『オンライン』でどう支えるか？

・認定NPO法人ポケットサポート
代表理事 三好 祐也 氏

15:20～15:30 振り返りトーク (10分)

【ゲスト】
・公益財団法人ベネッセこども基金
助成担当 青木 智宏 氏

15:30～15:40
閉会挨拶・参加者アンケートのお願い

3つのトークごとにポケットサポート代表の三好と各トークゲストが熱い思いで対談をしていきます！
YouTube ライブ配信チャットにて視聴者からの質問も受け付けます。皆さんと一緒に入院中の子どもたちを孤立させないための支援について考えていきます。

YouTube ライブ配信の視聴方法

ポケットサポートの公式ホームページもしくは YouTube サイトにて「ポケットサポート」で検索！
ライブ配信ページに移動して
パソコンやスマートフォンで視聴できます。

▼ポケットサポート WEB ページ

<https://www.pokesapo.com/>

ポケットサポート



お問い合わせ先

認定特定非営利活動法人ポケットサポート

電話：090-7590-0571(事務局)

F A X：086-941-1713 担当：奥田

メール：info@pokesapo.com

ポケットサポートが目指す社会

病気を抱える子どもたちが
将来に希望を持ち
自分らしく暮らせる社会

1. 環境をつくる

病気を抱えていても子どもらしい時間が過ごせるように
学習支援・復学支援・自立支援ができる環境をつくる

2. 生きる力を育む

病気による困難を抱えていても前向きに生きていけるよう
当事者や専門家と共に子どもや家族の「生きる力」を育む

3. 人や気持ちをつなぐ

病気の子どもの関わる人をつなぐコーディネートを行うと
共に社会への理解啓発により支援者を増やしていく

